

平成 24年度 自己評価書

学校名	和歌山市立 和歌浦小学校
校長氏名	中 村 民 樹
作成日	平成 25年 2月 12日

1 教育目標

健康なからだ、たしかな考え、豊かな心をもち意欲的に活動する子どもを育てる。

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	保護者や地域の方々との連携をさらに深め信頼関係を築く。 地域の人材を活用するネットワークづくりに取り組む。 学校関係者評価委員、学校評議員と連携し、よりよい教育活動につなげる。	読書活動の充実をはかる。 あいさつや掃除等に進んで取り組む態度を育成する。 道徳の指導を充実させ、児童の実態に応じた判断力・行動力を養う。 人権意識向上に向け、教育活動全般を通して取り組みを行う。	授業の工夫改善に取り組み、魅力ある授業づくりにつなげる。 指導方法の改善のため、教職員の研修の場を大切にす。 特別支援教育の推進に努める。 基礎学力の向上のため、家庭との連携を進める。

取組の状況【D】	運動会や教育講演会等の行事や学校開放週間などを積極的に地域の方々にも呼びかけた。「学校だより」は地域に回覧し、ホームページは月2回のペースで更新して教育活動の情報発信を行っている。防災教育や環境教育、よみきかせ、子どもセンター事業などにおいて和歌浦地域の方々より協力を得ている。	読書活動は学びの時間や昼休憩等の時間に実施し、「よみきかせ」にも取り組んだ。朝掃除やあいさつは、子どもたちに意識化できるように毎日取り組んでいる。道徳は学年の児童の実態に応じて実施している。また、集会発表や交流学習などは全校児童の学び合いの機会として大切にしている。	自分の考えや思いをしっかり表現できることをめざして学習指導に取り組んできた。各教科等の授業の中では一人ひとりのニーズに応じたわかりやすい授業づくりに努めてきた。本年度からお昼の時間に「学びの時間」を設けたが、基礎学力の向上のため大切な時間になっている。
(評価結果【C】)	学校行事等に多数来校していただいた。特に、学校開放週間には約500名の来校者があつた。また、育友会主催の「子どもまつり」はほとんどの児童が集い、保護者・地域の協力で楽しい休日の取り組みとなった。地域のボランティアによる「よみきかせ」の活動も徐々に定着してきている。	朝の掃除に毎日取り組む中で、子どもたちの力として定着しつつある。ただ、あいさつは児童も保護者も学校評価アンケートで3割近くが否定的な回答で、課題となっている。道徳は、各学年において適切な教材を工夫しており、一定の成果があつた。	本校児童は概ね、知識・理解は一定の力を発揮しているものの、応用や記述する問題を課題とする傾向がある。また、書くことを苦手とする児童が多く、作文など長文を書くことに抵抗がある。自分の考えを発表する力や学んだことを生かす力の育成も課題となる。
改善方法【A】	今後、子どもたちが豊かな地域生活を過ごしていくために、地域の方々ともっと身近にふれあえる機会をつくりたい。本校教育を保護者や地域の方々にわかりやすく具体的に発信し、さらなる理解と支援をいただきたい。また、地域の方の協力を得て、教育活動の充実につなげたい。	読書活動を定着させるため、計画的に図書室、学級文庫の充実をはかっていきたい。また、課題となっているあいさつは保護者・地域とさらに連携しながら、気持ちよく学校生活がすごせるようにあいさつの大切さを意識した教育活動に力を入れたい。子どもたちの心に深く響く道徳教材を活用したい。	表現する力や活用する力の育成には、授業の工夫や読書、小テスト、ワークシート、ミニ発表などを積極的に取り入れ、学習の積み上げをはかりたい。また、学んだ力を生かしていく学習活動も充実させたい。一方、さらに家庭と学校が連携し、学習習慣の定着の取り組みを進めたい。

3 その他の課題

- ・昨年度、不登校児童の指導・支援に苦労した。本年度は早期発見・早期対応に努め、現在不登校児は在籍していない。今後も組織的に対応できるよう取り組みを進めたい。
- ・特別支援教育の校内支援体制の整備に努力した。和歌山大学から専攻科学生や学習支援員などの協力も得て、校内支援体制が徐々に進展しつつある。さらに充実をはかりたい。
- ・子どもたちに、豊かな自然と歴史・文化に恵まれた和歌浦という地域を誇りに思えるよう、さらに地域に根ざした教育活動を展開したい。
- ・防災教育について、一層意識を高めるとともに、防災計画を再検討したい。
- ・「わかうら見守り隊」の方々さらなる連携をはかり、安心・安全な学校生活・地域生活に向けての取り組みを進めたい。

